

Science

日本保健医療行動科学会

The Japan Academy for Health Behavioral Science

News Letter vol. 1 1 1 2024.8.12

-111号目次-

●第38回学術大会大会長挨拶	1
●第38回学術大会ご案内(第4報)	2
▼日本保健医療行動科学会 第39回(2024年度)総会報告	6
◆能登半島地震医療職ボランティア報告	12
♣オンライントーク: 当事者との対話「であいはみちしるべ〜パーキンソン病とともに」〜	17
♣第112回東京支部会研究会「人々の暮らしに寄りそうエスノグラフィックインタビューを学ぼう」	17
▽「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集・「投稿論文」の募集・事務局だよりなど	18

●第38回日本保健医療行動科学会学術大会 大会長挨拶

仟 和子(京都大学大学院医学研究科)

「ウェルビーイングを自分の言葉で表現」

今年度の学術大会のテーマは「ウェルビーイングと行動科学」としました。最新の研究成果や実践報告を通じて、参加者の皆様と共に深く探求していきます。



本学会が出版した『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学 (初版)』では、保健医療行動を「人々がウェルビーイング

を達成するために行う全ての行動」と定義しています。第2版では、この定義には、行動をとる人の「人生」という時間軸と、「ウェルビーイング(well-being)」という健康の意味や質を表す言葉が含まれていると説明されています。このように、ウェルビーイングは、保健医療行動に関わる人々にとってはなじみのある言葉かもしれません。しかし、日本語で的確に言い換えるのは容易ではなく、「well-being」と英語でそのまま使ったり、「ウェルビーイング」とカタカナで表現されることが一般的です。

1946年にニューヨークで開かれた国際保健会議で採択された世界保健憲章(1948年4月7日発効)の前文には、「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」という一文が含まれています。外務省のHPに掲載されている日本語訳は、「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」となっています。また、日本WHO協会仮訳では、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」としています。well-beingをそのまま「健康」としてもいいかもしれませんし、幸福や満足度とも言えるでしょう。

近年、ウェルビーイングは、社会全体の持続可能な発展にも密接に関連していることが明らかになってきました。GDPのような経済統計に加え、社会の豊かさ

や人々の生活の質、満足度などに注目することが国際的な課題となっています。「経済財政運営と改革の基本方針」(いわゆる骨太方針)では、2019年から「well-being」という言葉が登場し、今年公表されたものまで毎年記述されています。2019年の骨太方針では、「我が国の経済社会の構造を人々の満足度(well-being)の観点から見える化する『満足度・生活の質を表す指標群(ダッシュボード)』の構築を進め、関連する指標を各分野のKPIに盛り込む」と記述されており、well-beingは「人々の満足度」としています。このような経緯により、「well-beingに関する関係府省庁連絡会議」が2021年から毎年開催されています。

ウェルビーイングは、日本において一般的にもなじみのある言葉になりつつあります。本学術大会では、基調講演や特別講演、シンポジウム、5つの体験学習ワークショップ、一般演題、交流集会を通じて、参加者の皆様一人ひとりがウェルビーイングを自分の言葉で表現することを目標としています。それが、自分自身の生活がウェルビーイングであり、周りの人々のウェルビーイングに貢献することにつながると確信しています。実行委員一同、秋の京都でお待ちしております。

●第38回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内(第4報)

■テーマ ウェルビーイングと行動科学

■会 期 2024年10月26日(土)・27日(日)

■会場 京都大学医学部人間健康科学科棟

■大 会 長 任 和子(京都大学大学院)

■主 催 日本保健医療行動科学会

■実施主体 第38回日本保健医療行動科学会学 術大会実行委員会

※最新情報は、随時、 第38回大会Webサイトに掲載されますので、そちらを確認してください。



京都大学医学部人間健康科学科棟 (大学HPより)

パことい。 https://www.jahbs.info/taikai38.html

▼プログラム概要 (内容・時間は変更される場合があります。)

10月26日(土)

11:00~12:30 (理事会)

12:30~ 受付開始

13:30~14:10 基調講演「『いつものように』を支える」

任和子(第38回大会長、京都大学大学院)

14:20~15:20 特別講演 I 「これからの幸福について:文化心理学的視点」

内田由紀子(京都大学人と社会の未来研究院)

15:30~16:45 一般演題口頭発表 I

16:55~17:35 一般演題ポスター発表(自由討論形式)

18:00~20:00 懇親会(会場近郊の店)(予定)

10月27日(日)

08:30~ 受付開始

09:00~10:15 一般演題口頭発表Ⅱ

10:25~11:25 特別講演Ⅱ「ウェルビーイング:『幸せ』との関係性」

井筒 節(東京大学大学院)

11:35~13:05 シンポジウム「地に足をつけてウェルビーイングを考える」

①「ヤングケアラーの実態」 濱島淑恵(大阪公立大学)

- ②「ホームレス支援の現場からみえる課題」 浦越有希(認定NPO法人Homedoor生活相談員・社会福祉士)
- ③「DV被害女性支援」

亀岡照子(一般社団法人シンママ大阪応援団理事・保健師)

13:15~14:15 **交流集会(一般公募企画)**(必要に応じて昼食持参可)

14:25~15:55 体験学習ワークショップ

(事前申込が必要、①②④⑤は各20名以内先着順、④は人数制限なし)

- ①「ヨガと乳がんの出会い~治療後のウェルビーイングとヨガ~」
- 篠永昌子(ヨガインストラクター(RYT500取得)・ヨーガセラピスト)
- ②「調整的音楽療法」 山﨑香織(京都大学大学院)
- ③「オープンダイアローグの体験」 岡本響子(奈良学園大学)ほか
- ④「行動の強化につなげるABC分析~応用行動分析のススメ~」 飛田伊都子(大阪医科薬科大学)
- ⑤「エネルギー療法としてのレイキ(Reiki)〜実践報告と体験〜」 吉岡隆之(日本福祉大学)ほか

▼一般演題発表(ロ頭発表・ポスター発表)の募集 (採択審査があります。)

学術研究報告(発表)を「研究報告」とし、実践・活動等報告(発表)を「実践・活動報告」とします。「実践・活動報告」は、保健医療行動科学に関する実践・活動等について、その目的、実践・活動内容、評価(結果・成果)、課題等を発表してください。「研究報告」「実践・活動報告」ともに口頭発表あるいはポスター発表が可能です。

口頭発表(研究報告または実践・活動報告) 発表時間は15分、質疑応答は10分で、 計25分以内です。

ポスター発表(研究報告または実践・活動報告) ポスター発表時間として設定された時間(40分間)に参加者の方々と自由にディスカッションしていただきます。ポスターは大会期間中を通して所定の場所に掲示していただきます。ポスターの掲示スペースは、横90cm、縦180cmの予定です。

一般演題の登録及び抄録原稿提出について(発表抄録は電子化されWebサイト等で公開される場合があります。)

●演題の登録と同時に抄録原稿の提出(送付)をお願いします。

抄録の採択審査を主に次の(1)(2)の観点で行います。審査結果は登録締め切り後1ヶ月 以内に連絡する予定です。発表日程と順番は9月下旬頃までに連絡する予定です。(採 択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。)

- (1) 発表内容は保健医療行動科学に関連する研究または健康行動に関連する実践・活動等で、国内外を問わず未発表のものに限ります。
- (2)人及び動物が対象である研究報告及び実践・活動報告の場合は、倫理的配慮について抄録の本文中に明記してください。人が対象である研究報告においては、研究の計画立案や実施にあたって、所属研究機関あるいは所属施設の研究倫理委員会ないしはそれに準じる機関等の承認を得たことを本文中に記載してください。

抄録様式:用紙はA4サイズ1枚(本文は2段組)です。抄録書式を参考に抄録雛形(Word)を用いて作成してください。抄録書式および抄録雛形は第38回大会Webサイトからダウンロードしてください。

演題登録:第38回大会専用の【一般演題発表】登録フォーム(第38回大会Webサイト参照)にて次の事項について登録を行い、抄録(Word)は、別途、電子メールにて第38回大会実行委員会事務局に送付してください。

メールアドレス(1) 氏名(2) 氏名のフリガナ(3) 所属(会員登録と同一)(4) 演題タイトル(5) 希望の発表種別(研究または実践・活動、口頭またはポスターの別)

※口頭またはポスター発表のご希望については、会場等の都合で変更をお願いする場合があります。

抄録送付先:第38回大会実行委員会事務局 メールアドレス 38jahbs gmail.com **演題登録・抄録提出期限:2024年8月31日(土)**

会員以外の方(非会員)の発表について

- ●一般演題の発表者は共同発表者を含めてすべて会員である必要があります。会員以外の方(非会員)は、入会のご案内をご参照の上、本学会入会申請Webサイトから入会手続きを行ってください。
- ●会員以外の方(非会員)は、本学会Webサイトの入会申込から入会手続きをお済ませの上、「演題登録・抄録提出」及び「事前参加申込」を行ってください。「演題登録先及び事前参加申込先(第38回大会実行委員会事務局)」と「入会手続先(学会本部事務局)」は異なりますのでご注意ください。

▼交流集会企画の一般公募 (採択審査があります。)

交流集会企画(一般公募)は、研究者グループ(2名以上の会員)が主体的に企画・運営し、参加者との学術的な交流を目的としています。保健医療行動科学に関連するそれぞれのテーマで自由な形式で発表及びフロア参加者とのディスカッションを行っていただきます。企画者の責任において開催することを考慮した上でご応募ください。(交流集会の企画者は、共同企画者を含めてすべて会員である必要があります。会員以外の方(非会員)は、上記「一般演題発表の募集」の「会員以外の方(非会員)の発表について」を参照してください。)

開催形式等 持ち時間60分の自主運営とします。昼食時間の開催につき昼食をとりながらの参加も可。

交流集会企画の登録及び抄録原稿提出について(発表抄録は電子化されWebサイト等で公開される場合があります。)

●企画の登録と同時に抄録原稿の提出をお願いします。

抄録の採択審査を行います。審査結果は登録締め切り後1ヶ月以内に連絡する予定です。 (採択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。)

抄録様式:用紙はA4サイズ1枚(本文は2段組)です。抄録書式を参考に抄録雛形(Word)を用いて作成してください。抄録書式および抄録雛形は第38回大会Webサイトからダウンロードしてください。

演題登録:第38回大会専用の【交流集会企画】登録フォーム(第38回大会Webサイト参照)にて次の事項について登録を行い、抄録は、別途、電子メールにて第38回大会実行委員会事務局に送付してください。

メールアドレス (1) 氏名 (2) 氏名のフリガナ (3) 所属(会員登録と同一) (4) 企画タイトル

抄録送付先:第38回大会実行委員会事務局 メールアドレス 38jahbs gmail.com

企画の登録・抄録提出期限:2024年8月31日(土)

▼大会参加費·懇親会費

大会参加費

事前申込:会員5,000円、非会員6,000円、大学院生3,000円、学部学生2,000円

当日参加:いずれも上記の1,000円増しになります。

懇親会費:会員・非会員・大学院生・学部学生とも6,000円

▼事前参加申込の方法 (下記の事前参加登録と参加費振込を行ってください。) 事前参加登録

●第38回大会専用の【事前参加申込】登録フォーム(第38回大会Webサイト参照)にて、次の事項について登録を行ってください。(第38回大会Webサイト:https://www.jahbs.info/taikai38.html)

メールアドレス(1)氏名 (2)氏名のフリガナ (3)所属 (4)参加種別(会員、非会員、大学院生等の別、会員の方は会員登録と同一)(5)ワークショップ参加希望 (6)懇親会参加 (7)振込金額(内訳と合計)

参加費振込 (下記の口座にお振り込みください。)

三菱UFJ銀行 聖護院支店(支店コード445) 普通預金 口座番号0220138 口座名義 第38回日本保健医療行動科学会学術大会 大会長 任和子

受取人名 (カナ) ダイサンジユウハチカイニホンホケンイリヨウコウドウカガ クカイガクジユツタイカイ ニン

事前参加申込(登録)期限:2024年9月30日(月)

●振り込みの完了をもって登録となります。振り込み手数料は申込者ご自身で負担してください。

▼第38回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会事務局

<連絡先> 38jahbs gmail.com

大会長 任 和子、実行委員長 吉岡隆之、事務局長 森西可菜子、会計担当 飯高浩子(実行委員会事務局に届くメールは上記4名に自動転送されます。)

<郵便物等送付先>〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻任和子研究室内

▼日本保健医療行動科学会 第39回(2024年度)総会報告

第39回(2024年度)総会が2024年6月30日(日)にZoomオンラインにて開催されました。これまで総会と同時開催されてきた学術大会が今年度は10月開催予定となり、ところが新年度の事業が既に始まっていることから、総会を単独で例年通り6月に開催することになりました。諏訪茂樹会長による開会宣言で始まり、総会の議長に村上真評議員、書記に徐淑子評議員が選出されました。

まず、第1号議案:2023年度事業報告(総会資料1)と第2号議案:2023年度収支決算報告(総会資料2)が行われ、監査報告(総会資料2)として「事業及び会計が適正に行なわれている」との報告が行われました。事業報告について、第38回学術大会の開催準備と2024年度総会の開催準備とを分けて記述し、また、各支部が独自に行っている支部活動は企画運営委員会の活動等から削除するという修正意見を取り入れ、承認となりました。

次に、第3号議案:2024年度事業計画(総会資料3)と第4号議案:2024年度予算案(総会資料4)が説明されました。事業計画についても、第38回学術大会の開催と2024年度総会の開催とを分けて記述し、また、各支部が独自に行っている支部活動は企画運営委員会の活動等から削除するという修正意見を取り入れ、承認となりました。

最後に報告事項として、第13期役員・委員会構成の一部変更について(総会資料5)説明の後、議長・書記の交代となりました。

総会に引き続き、支部活動報告として東京支部より第110回及び第111回の研究会実施報告と会計報告があり、また、近畿支部より第138回研究会実施報告と会計報告がありました。次に、第38回学術大会(京都大学)の任和子大会長と第39回学術大会(明海大学)の深井穫博大会長よりご挨拶があり、最後に中川記念奨励賞及び奨励研究員について、いずれも2024年度の応募はなく、2025年度について募集中であるとの報告がありました。

第1号議案:2023年度事業報告(総会資料1)※修正のうえ承認されたもの

1. 第37回学術大会・総会の開催

テーマ:未来志向の保健医療行動 大会長:馬込 武志(東大阪大学)

期 日:2023年6月17日(土)·18日(日)

会 場:東大阪大学

2. 2024年度総会の開催準備

期 日:2024年6月30日(日) 会 場:zoomオンライン会場

※総会前に第12回理事会(拡大理事会)、2024年度顧問・評議員会を開催予定

3. 第38回学術大会の開催準備

テーマ:ウェルビーイングと行動科学(仮)大会長:任和子(京都大学大学院)

期 日:2024年10月26日(土)・27日(日)

会 場:京都大学医学部人間健康科学科棟(予定)

4. 機関誌(雑誌)の発行

雑誌 第38巻1号『保健医療の研究倫理』(2023年8月発行) 雑誌 第38巻2号『未来志向の保健医療行動』(2023年12月発行)

5. 機関誌(雑誌)の発行準備

雑誌 第39巻1号『ネガティブ・ケーパビリティと行動科学』(2024年6月発行予定)

雜誌 第39巻2号『人生会議』(2024年12月発行予定)

※第39巻1号から紙媒体を廃止し、電子ジャーナルへ移行。

6. ニュースレターの発行

第108号(2023年9月)、第109号(2023年12月)、第110号(2024年3月)

7. 理事会の開催(5回)

第13期第6回(2023年5月21日)(オンライン会議)

第13期第7回(拡大)(2023年6月17日)(東大阪大学)

第13期第8回(2023年8月11日)(オンライン会議)

第13期第9回(2023年11月12日)(オンライン会議)

第13期第10回(2024年2月4日)(オンライン会議)

8. 2023年度顧問・評議員会の開催(1回)

期 日:2023年6月17日(土)(東大阪大学)

9. 企画運営委員会の活動等

- 1) 学会企画共同研究:
- ・1回/月以上のオンラインによる研究会の実施。
- ・研修会「医療・介護連携の多職種連携を考える ~事例を通して深める他職種・自職種への理解~| 実施(2023年11月10日)
- ・第37回学術大会にて、交流集会「職種間理解のための対話的ミーティング」実施。
- 2) 第4回オンライントーク「オンライントーク 当事者との会話 不登校・引きこもり親の会の活動から『社会的健康』を考える|実施(2023年11月13日)
- 10. 利益相反(COI)委員及び申告書(COI指針6「所定の様式」)の策定
- 11. 「中川記念奨励賞内規」及び「選考内規」の改訂
- 12. 中川記念奨励賞の選考 (2023年度応募者なし)募集 (2023年度応募者なし)
- 13. 奨励研究員の選考 (2023年度応募者なし) ・募集 (2023年度応募者なし)
- 14. その他

学会Webページのリニューアルと更新並びに公開(第6回理事会後)

第2号議案:2023年度収支決算報告および監査報告(総会資料2)

会則第20条に基づき、事業報告及び収支決算の監査を実施しましたので報告します

- 1. 監査対象 ①2023年度事業報告 ②2023年度収支決算
- 2. 監査報告 上記のとおり、納入、支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿への記帳は良好であったことを承します。

2023 年度予算		2023 年度決算		
収入の部	(単位:円)	収入の部	(単位:円)	
年会費 (7,000*352、5,000*25、 3000*1)	2,592,000	年会費 (7000*332、5000*26、 3000*1、会員種別変更による年会費不足 分後納 4,000)	2,461,000	
機関誌(雑誌)売上	200,000	機関誌(雑誌)売上	331,027	
		37 回大会補助費還付	405,815	
前年度からの繰越金	2,583,418	前年度からの繰越金	2,583,418	
利息	4	利息	0	
その他	0	その他(110回・111回東京支部研究 会消費税納税額仮受 1,419, 第 4回オン ライントーク非会員参加費 3,500)	4,919	
合 計	5,375,422	合 計	5,786,179	
支出の部	(単位:円)	支出の部	(単位:円)	
機関誌(雑誌)発行費	900,000	機関誌(雑誌)発行費 (37巻2 号, 38巻1号, 38巻2号)	1,229,349	
印刷費	180,000	印刷費 (学会封筒)	31,900	
人件費 (55,680/ 月* 12 + 時間外勤務分 152,000)	820,160	人件費 (53,975/月*12+所得税 22,861+2023 年度超過勤務分 123,130)	793,691	
通信連絡費	400,000	通信連絡費(発送費,振込手数料等)	202,568	
消耗品・備品費	330,000	消耗品・備品費 (インク代)	3,540	
会議費 (理事会等交通費 200,000、 Zoom・ Google Workspace 等利用料 30,000)	230,000	会議費 (Zoom・Google Workspace 等利 用料)	39,993	
第 38 回学術大会補助費	300,000	学術大会補助費 (38 回大会補助費 は 2024 年度予算に計上)	0	
支部活動補助費	0	支部活動補助費	0	
学会事務所運営費(書類保管スペースレンタル 10,000/月*12、MT 私書箱センター年間利用料)	174,450	学会事務所運営費 (私書箱契約 74,450+MS365 契約 12,800+レンウルスペース 代 120,000)	207,250	
編集委員会費	50,000	編集委員会費 (原稿執筆料, 査読 料, 編集ソフト代等)	28,180	
雑誌投稿・審査システム運用費	220,000	雑誌投稿・審査システム運用費	195,800	
中川記念奨励賞副賞	0	中川記念奨励賞副賞	0	
学会 web サイト運営費 (サーバ ー等)	16,000	学会 web サイト運営費 (サーバ ー等)	18,407	
会員管理システム運用費	450,000	会員管理システム運用費	426,467	
企画運営委員会活動費	500,000	企画運営委員会活動費	195,239	
予備費	804,812	次年度への繰越金	2,413,795	
合 計	5,375,422	合 計	5,786,179	

※次年度繰越金を除く支出合計3,372,384円(収入合計5,786,179円-次年度繰越金2,413,795円)<2023年度特別会計>(2024年3月31日現在) (2022年度末特別会計残高1,418,749円)

事業費残高 1,527,798 円 2023 年度収入合計 109,654 円(教科書売上 109,642 円、利息 12 円) 2023 年度支出合計 605 円(振込手数料 605 円)

2023年度監査報告

会則第20条に基づき、事業報告及び収支決算の監査を実施しましたので報告します。

- 1. 監査対象 ①2023年度事業報告 ②2023年度収支決算
- 2. 監査報告 上記のとおり、納入、支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿 への記帳は良好であったことを承認します。

2024年5月26日

監 査 河口てる子 天野雅夫

第3号議案:2024年度事業計画(総会資料3)※修正のうえ承認されたもの

1. 2024年度総会の開催

期 日:2024年6月30日(日)

会 場:オンライン

※総会前に第12回理事会(拡大理事会)、2024年度顧問・評議委員会を開催

2. 第38回学術大会の開催

テーマ:ウェルビーイングと行動科学(仮)

大会長:任 和子(京都大学大学院)

期 日:2024年10月26日(土)・27日(日)

会 場:京都大学医学部人間健康科学科棟(予定)

3. 第39回学術大会・2025年度総会の開催準備

テーマ:未定 大会長:深井 穫博(深井保健科学研究所)

期 日:2025年6月(予定)会 場:対面(明海大学)

4. 第8回国際保健医療行動科学会議開催の検討

期日, 開催地は未定

5. 機関誌(雑誌)の発行

雑誌 第39巻1号『ネガティブ・ケーパビリティと行動科学』(2024年6月発行予 定)

雜誌 第39巻2号『人生会議』(2024年12月発行予定)

6. 機関誌 (雑誌)の発行準備

雜誌 第40巻1号(2025年6月発行予定) 雑誌 第40巻2号(2025年12月発行予定)

7. ニュースレターの発行

第111号(2024年8月),第112号(2024年12月),第113号(2025年3月)(予 定)

8. 理事会の開催(5回)

第13期第11回(2024年5月26日)(オンライン会議)

第13期第12回(拡大)(2024年6月30日)(オンライン会議)

第13期第13回(2024年8月)(オンライン会議)(予定)

第13期第14回(2024年10月)(対面会議)(予定)

第13期第15回(2025年2月)(オンライン会議)(予定)

9. 2024年度顧問・評議員会の開催(1回)

2024年6月30日(日) (オンライン会議)

10. 企画運営委員会の活動等

- · 学会企画共同研究
- ・オンライントーク・シンポジウム等の開催検討
- ・学会Webサイト更新
- ・理事・監事選出規約等の改定の検討

- **11. 第14期理事・監事選挙の実施**(2024年12月~2025年1月 電子投票により実施予定)
- 12. 中川記念奨励賞の選考(2024年度応募者なし)・募集(2025年度)
- 13. 奨励研究員の選考(2024年度応募者なし)・募集(2025年度)

第4号議案:2024年度予算案(総会資料4)

収 入 の 部	(単位:円)
年会費 (通常 7,000*330、大学院 5,000*25)	2,435,000
機関誌(雑誌)売上(電子ジャーナル化のため)	0
前年度からの繰越金	2,413,795
その他	0
合 計	4,848,795
支 出 の 部	(単位:円)
機関誌(雑誌)発行費	600,000
印刷費 (学会封筒等)	80,000
人件費 (58, 464/月*12 + 時間外勤務分 133, 371)	834,939
通信連絡費 (IP 電話利用料など)	100,000
消耗品・備品費	200,000
会議費 (理事会等交通費 200,000、Z00M・Google Workspace 等利用料 40,000)	240,000
学術大会補助費(38回大会,39回大会)	600,000
支部活動補助費	0
学会事務所運営費(書類保管スペースレンタル 10,000/月*12、MS365 契約料、MT 私書箱センター年間利用料)	207,250
編集委員会費(原稿依頼料,査読謝礼,編集ソフト代等)	50,000
雑誌投稿・審査システム運用費	220,000
中川記念奨励賞副賞	0
学会 web サイト等運用費 (サーバー等 20,000)	20,000
会員管理システム運用費	450,000
企画運営委員会活動費	450,000
役員選挙費(電子投票システム利用料等)	100,000
予備費	696,606
合 計	4,848,795

<2024年度特別会計>

(2023年度末特別会計残高1,527,798円)

(参考) 2023年度の教科書増刷はなし。注文に応じて2024年度に増刷予定。

日本保健医療行動科学会 役員・委員会構成(総会資料5) 2024年5月26日現在

第13期(任期:2022年6月1日~2025年5月31日、顧問は任期の定めなし)

〈顧 問〉稲岡文昭(看護学), 仲尾唯治(社会学), 藤崎和彦(医学), 南裕子(看護学), 宗像恒次(健康科学), Brian Hurwitz(ブライアン・ハーウィッツ)(医学, 英国), John Launer(ジョン・ローナー)(医学, 英国)

〈理事・会長〉諏訪茂樹(社会学)

〈理事・副会長〉岡 美智代(看護学), 樋口倫子(心理・福祉学),

〈理事〉梓川一(心理・福祉学),大門恭平(健康科学 ~2023年3月31日),岡本響子(看護学 2022年9月4日~),上山千恵子(看護学 2022年9月4日~),小林好信(健康科学),酒井幸子(社会学)、白土菜津実(看護学 2022年8月24日~),末松弘行(医学),中川晶(医学),任和子(看護学),花家薫(健康科学 2023年5月21日~),蓮井貴子(看護学),林哲也(健康科学),深井穫博(歯学),宮本眞巳(看護学),安酸史子(看護学),吉岡隆之(健康科学)

〈監 事〉天野雅夫(社会学 2023年5月21日~),河口てる子(看護学), 花家薫(健康科学 ~2023年5月20日),

〈評議員〉上杉裕子(看護学),大芦治(心理・福祉学),岡本響子(看護学 ~2022年9月3日),小田和美(看護学),上山千恵子(看護学 ~2022年9月3日),川村千恵子(看護学),小林昌廣(健康科学),紺井拡隆(歯学),佐藤富美子(看護学),島井哲志(心理・福祉学 ~2023年3月31日),瀬在泉(健康科学),徐淑子(社会学),平英美(社会学),髙橋さつき(看護学),藤内修二(医学),東中須惠子(看護学 ~2023年3月31日),久村正也(医学),藤田裕一(心理・福祉学),本庄恵子(看護学),馬込武志(社会学),眞崎由香(看護学),松田聡(医学),松原みゆき(看護学),道信良子(社会学),村岡潔(社会学),村上真(健康科学),村田正章(医学),元村直靖(医学),守本とも子(看護学),山口豊(心理・福祉学),山崎裕美子(看護学),吉村雅世(看護学),渡辺理和(社会学)

<顧問7名,理事19名(会長・副会長を含む),監事2名,評議員29名(2024年5月26日現在)>

【編集委員会(常設)】

樋口倫子(委員長),岡美智代,岡本響子(2022年9月4日~),

上山千恵子(2022年9月4日~)

諏訪茂樹, 任和子, 蓮井貴子, 花家薫(2023年5月21日~), 深井穫博, 宮本眞巳, 吉岡隆之

【広報委員会(常設)】

岡美智代(委員長),大門恭平(~2023年3月31日),小林好信(ウェブサイト主担当),

白土菜津実(ニュースレター主担当2022年8月24日~), 林 哲也

【国際交流委員会(常設)】

中川 晶(委員長), 岡 美智代, 諏訪茂樹, 樋口倫子, 吉岡隆之

【中川記念奨励賞選考委員会(常設)】

安酸史子(委員長), 梓川一, 末松弘行, 宮本眞巳(以上, 理事から選出)上杉裕子、藤田裕一、本庄恵子、道信良子(以上、評議員から選出)

◆能登半島地震医療職ボランティア活動報告

看護師・保健師:酒井幸子

1.活動期間・場所

輪島市門前町は能登半島北西部に位置し、曹洞宗大本山總持寺1の門前町として栄えた町です。江戸時代には幕府の天領となり、明治時代には北前船2の船主集落としても栄え、黒瓦に象徴される伝統的家屋が立ち並んでおり、2009年には門前町黒島地区が国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されました。しかしながら、2024年1月1日に発生した能登半島地震では、輪島市全体が震度7という激しい揺れにより甚大な被害を受け、多くの住民が避難所での生活を余儀なくされました。

私は、特定非営利活動法人ジャパンハート 3 から派遣され、駐在看護師として、 $3月17日から24日までの8日間を避難所で生活し、門前町とその近隣の集落<math>^4$ にある指定避難所11ヶ所を巡回しました。

2.被災状況

活動の始めに目の当たりにしたのは、干上がった海岸と漁港、離水した船やテトラポットでした。調査によれば、地盤は、最も激しいところで4~5mも隆起し、その影響から海岸線は数百メートル前進していました。地域全体の道路にも隆起による割れや段差が出現し、液状化現象も生じており、落壁により一時通行止めとなったトンネルもありました。活動時には大半が修繕され、通行可能となっていましたが、細い道や私道には、損壊した電柱や建造物がそのまま横たわっており、通行中の道が手前で陥没したために、Uターンを余儀なくされたこともあり、被災地での生活は危険と隣り合わせであると実感しました。







道路隆起

- 1.1898年に焼失し、1911年に神奈川県横浜市に移転される。
- 2.日本海回りで、積み荷を売り買いした商船。
- 3.国際的な医療支援を行う団体。日本国内でも災害医療や離島医療支援を行っています。
- 4.行政区分における、仁岸・阿岸・黒島・諸岡・門前・本郷・浦上・七浦地区を含む。



倒壊家屋

受け入れ制限には納得せざるを得ませんでしたが、住民による自力対応には限界があり、被災家屋の片づけが進まない様子が見て取れました。活動期間中、2度の降雪がありましたが、レインコートに長靴姿で出かける方を見かけては、無事を願い、お声掛けしました。地域の診療所も同様に被災しており、診療自体は再開していましたが、診療科や時間帯を限定している状況にありました。

3.避難所の様子

避難所は、小中学校や公民館等の公共施設、指定避難所に辿り着けなかった方々が身を寄せた民間施設に分けられ、避難者数は5名から約170名と規模や避難者数はまちまちでした。活動期間中には、民間施設から指定避難所への移動が行われ、合併された避難所もありました。避難所により生活水準に若干の差が見られ、①施設設備と、②プライバシー保護資材の使用の有無に大きく起因すると考えられました。指定避難所の多くは公共施設から選定されますが、設置目的と普段の使用頻度によっては改修がされておらず、避難所に必要な手洗い場や炊事場、空調の不備・不足があるように見受けられました。また、段ボール製の簡易ハウスや壁付ベッドには、プライバシーを守るだけでなく、就寝時に暗くできる点5や保温機能などの利点がありますが、運搬と組み立てに手間がかかることから、生活空間が広く、避難者が多い学校等の避難所に限定して使用されていました。

設備面にも増して、健康面への影響が懸念された点は、集落内の関係性にありました。避難所では、救援物資の配給や情報伝達、分担清掃を円滑に行うことを企図し、集落を基準にグループが作られていました。人間関係が良く、助け合いが行われているグループは、共同炊事や談話している姿をよく見かけましたが、集落内の交流が少ないグループは、ベッドで過ごす方が多く、集団の中にいながら社会的孤立が懸念されました。生活リズムや衛生に関する認識の違いに起因する摩擦も生じており、問題を感じている人ほど、摩擦の回避と引き換えに孤立が進むと考えられ、周囲が気づき難い状況だと感じました。

5.避難所では、安全対策として、夜間も薄明りをつけているため、完全に暗くなりません。また、日の出とともに明るくなり、調光が難しい環境でした。

4.活動内容

発災直後、地域保健行政には、在宅 高齢者の生活実態の早期把握、及び地 域医療と災害医療支援の連携調整とい う2つの機能が新たに加わり、それら の役割を担う保健師の負担は非常に大 きくなっていました。その負担を軽減 し、また医療連携の円滑化を図り、地 域住民の生活の安全性を高めることを 活動目的として、避難所生活者への対 応を担いました。「災害医療支援」と いう言葉からは、一般的には救急医療 が発想されることと思いますが、発災 から2カ月半ほど経っていたため、緊急 性の高い医療需要は落ち着いており、 日常的な医療相談や集団生活における 保健活動が主な活動となりました。

具体的には、避難所生活者の健康観察、受療相談、潜在的な介護ニーズが表面化した方の見守りが多く、必要に



段ボールハウス (集落)

応じて災害医療支援の担当医との連携を図りました。指定避難所は、指定一般避難所と指定福祉避難所とに大きく分けられ、支援が必要な方は指定福祉避難所で受け入れることが定められていましたが、受け容れ上限数が需要より少なく、家族や知人から離れて生活するデメリットも生じるため、実際には、要支援・要介護と思われる方が、家族等に付き添われて避難所で生活していることもありました。そのようなケースを医療職間で共有し、付添者の不在時間が長い方は定期的に訪問し、体調管理支援と体調不良の早期発見に努めました。

インフルエンザや新型コロナ感染症の発生時には、発症者への対応と感染拡大 予防策を行いました。避難所は高齢者の割合が高く、また発症者の隔離が難しい ため、感染拡大の予防が重視されており、発症者の自宅に倒壊の危険がなく、通 水が確認された場合、自宅隔離が要請されます。しかしながら、被災した家屋で の生活は、寒さが厳しく多大な不安を伴うため、生活上の支障を最低限に留め不 安が軽減されるよう、架電による健康観察・生活相談を行いました。また、発症 者の所属するグループの居住区域を確認し、換気指導と健康観察を行いました。

その他、夜間健康相談窓口(訪問含む)、対口支援6チームとの衛生管理に関わる協働、代表者会議7のオブザーバー等の役割を担いました。個人的には、創傷看護領域での経験を活かして、フットケアを実施し、巻き爪や白癬の治療を行いました。

^{6.}都道府県による相互支援制度。インフラ整備の他、避難所の運営管理等も行い、各避難所に数名が配置されました。

^{7.}避難所の各グループの代表者と対口支援チームによる会議。情報共有と物資配給方法などの避難所運営について話し合われました。

5.活動の評価と課題

門前地区とその周辺地区を管轄とする災害対策本部は、輪島市役所門前総合支所に設置され、同支所が同管轄で活動する支援団体の拠点となりました。発災当初は、多くの災害支援組織から専門職が派遣されていましたが(表 1)、災害医療需要の減少に伴い、3月時点では活動を縮小あるいは終了した団体が増え、門前支所を拠点に常駐していた団体は、JMAT2チーム、JRAT1チーム、Japan Heart駐在看護師チームのみとなりました。

JMATとJRATが、3~4日毎にメンバー交代を行っていた中、Japan Heartは駐在看護師の交代頻度が比較的低く、必然的に医療支援を必要とする避難所生活者の情報管理を担うようになりました。JMATとJRATからは、患者の経過を把握でき、短い滞在期間の中でも診療を円滑に行えるとフィードバックがあり、組織間連携における効果的な情報管理の方法を示せたと思います。

毎日活動開始前と終了後に、保健師を中心に、情報共有と業務調整を行い、派遣 予定医師の専門領域を事前に確認し、専門医の往診を依頼することが可能であった 点は、診療科目が限定されていた状況において、大きく評価できると思います。

一方、指定福祉避難所⁸では、職員が被災したために欠員が出たにも関わらず、被支援者数が定員の約2倍となり、深刻な褥瘡が発生して、厳しい状況が続いていました。褥瘡ケアチームが週に2回介入し、瘡洗浄と除圧指導を行った結果、患部の改善を認めましたが、根本的な解決には至りませんでした。今後は、福祉避難所のケア支援を目的とした駐在型看護師・介護福祉士の派遣、あるいは要介護者の避難所での受け入れを検討する必要があると考えられます。

表 1: 支援団体一覧

災害派遣医療チーム(DMAT: Disaster Medical Assistance Team)

日本医師会災害医療チーム(JMAT: Japan Medical Association Team)

災害派遣精神医療チーム(DPAT: Disaster Psychiatric Assistance Team)

日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT: Japan Disaster Rehabilitation

Assistance Team)

心のケアチーム(国際医療NGO団体)

褥瘡ケア専門チーム (専門看護師)

災害派遣福祉チーム(DWAT: Disaster Welfare Assistance Team)

日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT: The Japan Dietetic Association-

Disaster Assistance Team)

駐在看護師チーム(国際医療NGO Japan Heart)

6.今後の支援とボランティア役割の検討

3月は、家屋被害の認定調査が進んだ一方で、仮設住宅が竣工し、その直前に入居申込手続きガイダンスや抽選が行われた時期でもありました。被災家屋の公費解体制度や被災者生活再建制度等は、半壊以上の判定がないと利用できません。仮設住宅についても、半壊以上でないと入居は難しいことが判明しましたが、予定入居数の2倍の申し込みがありました。

準半壊や一部損壊の判定を受けた方からは、住宅修繕費用を心配する声、修繕に時間がかかるために避難所生活が長引くことを心配する声、あと何年生きられるかも分からないのに、修繕しなければいけないのかと憤る声が上がりました。仮設住宅に入居できても、2年後に追い出されてしまうのではないかと心配する方もあり、それならば移住を検討したいという意見も出ましたが、行政側から明確な回答は得られず、不安の高まりから体調を崩す方が相次ぎました。

そのような状況下、住民は自宅片づけを急ぎ、心理的負担の増加に反して、健康 関心度は低くなったように思います。被災者が望むのは、5年後、10年後を見据え た対話であり、そのような話し合いが持てない点に災害対策の難しさを感じました。 災害医療需要が落ち着いた今、心のケアの継続と並行して、健康への関心を維持す る取り組みを行い、また被災地の現状に関する発信を通して、世論や行政へ働きか けることも医療職ボランティアの役割になるのではないでしょうか。今後は、その 方法について検討を続けたいと思います。



JH活動メンバー(右から2人目が筆者)

♣第5回オンライントーク:

当事者との対話「であいはみちしるべ~パーキンソン病とともに~」

共催日本保健医療行動科学会・当事者語りの研究会~悠久~ 笹ら同オンノライントーク 当事者と

「であいは みちしるべ ~パーキンソン病とともに~」

日時:2024年8月18日(日) 19:00~20:30

場所:ZOOM オンライン会場

費用:日本保健医療行動科学会 学会員・非学会員無料

<語りの内容について>

語り手:河本環氏(言語聴覚士・当事者語りの研究会~悠久~役員)

講演内容:病歴18年のパーキンソン病患者の河本氏は、医師をはじめ さまざまな人との出会いに恵まれ、絶体絶命と思える場面を 乗り越えてきました。病気に罹患したことを悲観することなく、 むしろプラスに捉え、前を向いて歩いている様子を語ってい ただきます。

コーディネーター: 梓川一氏(日本保健医療行動科学会理事・当事者語りの研究会~悠久~会長)

であいは みちしるべ バーキンシン線とともに カキー

申し込みページ

(Peatix)

■語り手:河本環氏(言語聴覚士・当事者語りの研究会~悠久~ 役員)

言語聴覚士として聴覚障害乳幼児の支援に携わっていた河本環氏は、手話サークルで成人聴覚障害者の生き方から多くのことを学び、たくさんの仲間づくりをしてきました。「せっかく病気に罹ったのだから…」と、さらに新しいことにチャレンジしようと、自分にできることに目を向けています。

【申し込み】8/16(金)17:00まで。

Peatix (ピーティックス) よりお申し込み下さい。https://yuukyuukatarivol4.peatix.com/view

【問い合わせ】 toujisya.yuukyuu*gmail.com(*を@に変換してください)

♣第112回東京支部研究会:

人々の暮らしに寄りそう エスノグラフィック・インタビューを学ぼう

エスノグラフィは現場に密着し、人々の暮らしを丸ごと理解しようとする調査手法です。 今回、保健・医療・福祉等さまざまな分野で活用されているヘルス・エスノグラフィ の第一人者である道信良子先生(福井県立大学)と共に、エスノグラフィック・インタ ビューについて学ぶ、体験型ワークショップを開催します。

【日 時】 2024年9月7日(土) 9:00~16:00

【会 場】 順天堂大学お茶ノ水キャンパス (国際教養学部) 東京都文京区本郷2丁目3番14号

【講 師】 道信 良子 先生(福井県立大学教授)

【内 容】 エスノグラフィック・インタビューの概要と方法

若干名申込 可能です! (8/11現在)



申し込みページ 学会HP⇒第112回東京支部研究会

- ●インタビューの準備、分析、テーマの発見までを含み、そのプロセスについて議論します。
- ●インタビューを始めて行う人にもわかりやすく解説します。 (道信良子著『ヘルス・エスノグラフィ』(医学書院)を参考図書とします)

【参加費】 会員・学生 3,000円/非会員 6,000円

問い合わせ先: hasui * rchokkaido-cn.ac.jp(*を@に変換してください)

(日本赤十字北海道看護大学:蓮井)

「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において 45 歳未満もしくは学会入会後10年未満の通常会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規(2023.6.17.最終改定版)」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規(2023.6.17.最終改定版)」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は1年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。

=

日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中

- ●学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。
- ●雑誌の発行は年2回(6月及び12月の予定)です。
- ●投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。
- ●投稿論文は「オンライン投稿・査読システム(Editorial Manager®)」にて受け付けとなります。
- ●投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト(https://www.jahbs.info/)の「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。

=

事務局だより

- ●2024年度会費(2024年4月1日~2025年3月31日)及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください(会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込(りそな銀行宛)またはクレジットカード決済(各種)となります)。詳しくは本学会 Webサイトをご参照ください。
- 2013 年 6 月(第 10 期)以降の理事会議事録及びニュースレター (第 81 号~第 99 号)を学会 Web サイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページトップにあります。ニュースレター第 100 号以降は学会 Web サイトで一般公開しています。
- ●退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルをメールに添付して事務局に送付してください。

<事務局連絡先 info*jahbs.info(*を@に変換してください)>



会員勧誘のお願い

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会Web サイト(https://www.jahbs.info/)から ダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申しあげます。



編集後記:10月の学術大会が迫ってまいりました。大会の実行委員会の皆様には、ご多忙の中ご準備に奔走頂きまして御礼申し上げます。また先日行われました第39回(2024年度)総会報告を掲載しました。役員の皆様のお名前を拝見しながら、多様な分野から多くの方々の関わりによって本学会が受け継がれていることを改めて感じます。そして酒井先生の被災地でのご活動の大変貴重なご報告に身の引きしまる思いがいたしました。オンライントーク、東京支部活動、そして学術大会と実り多き集いとなりますよう願っております。(林)

発行:日本保健医療行動科学会 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-22-702